

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	T-LOGIあきる野	階数	地上4F・地下0F
建設地	東京都あきる野市	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	904 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年5月 予定	評価の実施日	2023年4月6日
敷地面積	28,217 m ²	作成者	鈴木拓海
建築面積	19,268 m ²	確認日	2023年4月6日
延床面積	49,989 m ²	確認者	川口浩司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 3.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.4

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 4.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.9

3 設計上の配慮事項		その他
<p>総合 東京都あきる野市に計画された物流倉庫である。広大な敷地内にも関わらず緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。</p>		0
<p>Q1 室内環境 ・評価対象外</p>	<p>Q2 サービス性能 ・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 ・十分な階高を確保し、空間の対応性・更新性に配慮する。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) ・広大な敷地内にも関わらず緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮している。</p>
<p>LR1 エネルギー ・LED照明の採用等により、エネルギー使用量削減に配慮する。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル ・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材を採用し、非再生資源の使用量削減に配慮する。</p>	<p>LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を使用せず、大気汚染防止に配慮する。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
T-LOGIあきる野

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.1)

スコアシート		竣工段階					
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
			Q 建築物の環境品質				
Q1 室内環境							
1 音環境							
1.1 室内騒音レベル	-		-	-	-	-	-
1.2 遮音	-		-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能	-		-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能	-		-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-	-	-	-	-
1.3 吸音	-		-	-	-	-	-
2 温熱環境							
2.1 室温制御	-		-	-	-	-	-
1 室温	-		-	-	-	-	-
2 外皮性能	-		-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性	-		-	-	-	-	-
2.2 湿度制御	-		-	-	-	-	-
2.3 空調方式	-		-	-	-	-	-
3 光・視環境							
3.1 屋光利用	-		-	-	-	-	-
1 屋光率	-		-	-	-	-	-
2 方位別開口	-		-	-	-	-	-
3 屋光利用設備	-		-	-	-	-	-
3.2 グレア対策	-		-	-	-	-	-
1 屋光制御	-		-	-	-	-	-
3.3 照度	-		-	-	-	-	-
3.4 照明制御	-		-	-	-	-	-
4 空気質環境							
4.1 発生源対策	-		-	-	-	-	-
1 化学汚染物質	-		-	-	-	-	-
4.2 換気	-		-	-	-	-	-
1 換気量	-		-	-	-	-	-
2 自然換気性能	-		-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮	-		-	-	-	-	-
4.3 運用管理	-		-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視	-		-	-	-	-	-
2 喫煙の制御	-		-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				0.43			3.7
1 機能性							
1.1 機能性・使いやすさ	-		-	-	-	-	-
1 広さ・収納性	-		-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応	-		-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画	-		-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性	-		-	-	-	-	-
1 広さ感・景観	-		-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース	-		-	-	-	-	-
3 内装計画	-		-	-	-	-	-
1.3 維持管理	-		-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性			3.3	0.50			3.3
2.1 耐震・免震・制震・制振	-		3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-		3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能	-		3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数	-		4.0	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数	-		3.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	断熱鋼板サンドイッチパネルを外装材に採用		5.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	タイルカーペットや岩綿吸音板等の内装材を採用		5.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-		3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用		5.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔	-		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性	-		3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備	-		3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備	-		2.0	0.20	-	-	-
3 電気設備	-		3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法	耐震クラス:Aクラス		4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備	-		3.0	0.20	-	-	-

3 対応性・更新性			4.2	0.50	-	-	4.2
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1 階高のゆとり	階高:3.9m以上		5.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.1未満		5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	床荷重は4500N/m ² 以上で、架構・地震も割り増しあり		5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性	-		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕が可能		5.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性	-		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保	-		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	3.4
1 生物環境の保全と創出	立地特性の把握、自生種の保全等		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用、ITVカメラ設置による防犯対策等		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.48		5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=-0.72		5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング	用途別エネルギー消費量を把握し分析が可能		4.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	運用管理体制の組織化及びエネルギー目標値の設定		4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	節水器具を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.1	0.60	-	-	4.1
2.1 材料使用量の削減	強度の高い材料及びBCP鋼材等の採用等		4.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ビニル床タイル:床、OAフロア:床、岩綿吸音板:天井		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	持続可能な森林から産出された木材を壁材に使用		5.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と内装材は容易に分離可能で、かつOAフロアを採用		5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	PRTR法の対象物質を含有しない材料を4種類使用		5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤	-		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP≤10の断熱材を採用		4.0	0.50	-	-	
3 冷媒	-		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.9
1 地球温暖化への配慮	LCCO2排出率17%		5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.7	0.33	-	-	3.7
2.1 大気汚染防止	燃焼設備の使用なし		5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	十分な駐輪・駐車台数を確保		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	ごみ分別容器の設置及び減容機器の設置等		5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音	-		3.0	1.00	-	-	
2 振動	-		-	-	-	-	
3 悪臭	-		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	
3 日照障害の抑制	-		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物におけるチェックリストの過半を満足		4.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	11.0	-	2.0	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	-	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	4.0	-	-	1.0	1.0	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0	-	-	-	1.0	2.0	2.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	3.0	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0	-	1.0	1.0	-	3.0	2.0	-	-	3.0	1.0	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	4.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	5.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	-	1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標	
Q1 室内環境	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -
3.1.1 昼光率	昼光率 0.0%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 0.0%
Q2 サービス性能	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース .0m ² /人 病床 .0m ² /床 シングル .0m ² ツイン .0m ²
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 0.0 VA/m ²
1.2.1 広さ感・景観	天井高 0 m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 0 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 30 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 20 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 0 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 6.1 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 5.8%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 11250・1!N/m2
Q3 室外環境(敷地内)	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 63% 建物緑化指数 0%
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 32% 水平投影面積率 10% 地表面対策面積率 23% 舗装面積率 18%
LR1 エネルギー	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI _m 0.48 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 0 MJ/年m ² 採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0% 通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI _m 非住宅 0.72 住宅 - 太陽光 1,410.5kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW
LR2 資源・マテリアル	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 0.0%
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 ビニル床タイル エコマーク商品 OA707・岩綿吸音断熱体指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 100.0%
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 4
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) 地球温暖化係数(GWP)
LR3 敷地外環境	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 101% 隣棟間隔指標Rw 1.37 地表面対策面積率 33.0% 屋根面対策面積率 #DIV/0! 外壁面対策面積率 #DIV/0! 見付面積Sb 4,873m ² 卓越風向と直交する最大敷地幅Ws 263.422 m 基準高さHb 18.167 m 緑地 3,819m ² 水面 m ² 保水性対策面 m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²